

7 介助の状況

(1) 日常生活での介助の必要性

日常生活のなかでの介助が必要な場面は、身体障害者では外出、身の回りの掃除、洗濯、食事のしたくや後かたづけが多く、介助を必要としない人は34.2%となっています。

年齢別では、17歳未満は外出、身の回りの掃除、洗濯のほか、食事のしたくや後かたづけ、食事、着替え、トイレ、入浴、金銭の管理、電話、ファクシミリの利用もおおむね半数以上と多くなっています。これらの中には、障害とは別に、年齢的な要因もあると思われます。

17歳以上、特に40歳以上になると、全体的に介助を必要な割合は低くなっています。

上段：人数（人）、下段：割合（%）

身体障害者	全体	問28 日常生活で介助が必要なこと															
		食事	着替え	トイレ	入浴	寝返り	室内の移動	外出	後食かたづけしたくや	除身の洗濯りの掃	ケイ、シ、コ、ニ	電話の管理	ミ、電、リ、の、利、フ、ア、ク、シ	その他	介助は必要ない	不明	
合計	2073 100.0	313 15.1	354 17.1	326 15.7	480 23.2	152 7.3	234 11.3	635 30.6	555 26.8	560 27.0	229 11.0	300 14.5	278 13.4	66 3.2	708 34.2	419 20.2	
年齢	17歳未満	27 100.0	13 48.1	14 51.9	14 51.9	15 55.6	6 22.2	10 37.0	17 63.0	16 59.3	17 63.0	12 44.4	14 51.9	13 48.1	0 0.0	6 22.2	2 7.4
	17～39歳	133 100.0	37 27.8	38 28.6	41 30.8	46 34.6	16 12.0	24 18.0	52 39.1	55 41.4	52 39.1	39 29.3	45 33.8	40 30.1	4 3.0	42 31.6	10 7.5
	40～64歳	650 100.0	51 7.8	67 10.3	57 8.8	93 14.3	29 4.5	42 6.5	141 21.7	124 19.1	125 19.2	52 8.0	52 8.0	51 7.8	22 3.4	298 45.8	120 18.5
	65歳以上	1228 100.0	208 16.9	231 18.8	212 17.3	323 26.3	101 8.2	156 12.7	419 34.1	353 28.7	356 29.0	125 10.2	187 15.2	174 14.2	39 3.2	354 28.8	275 22.4

障害者手帳の等級別では、等級が上がるほど介助を必要とする割合は高くなるが、おおむね1・2級と3級以下で差が大きくなる傾向が見られます。

上段：人数（人）、下段：割合（%）

身体障害者	全体	問28 日常生活で介助が必要なこと															
		食事	着替え	トイレ	入浴	寝返り	室内の移動	外出	後食かたづけしたくや	除身の洗濯りの掃	ケイ、シ、コ、ニ	電話の管理	ミ、電、リ、の、利、フ、ア、ク、シ	その他	介助は必要ない	不明	
合計	2073 100.0	313 15.1	354 17.1	326 15.7	480 23.2	152 7.3	234 11.3	635 30.6	555 26.8	560 27.0	229 11.0	300 14.5	278 13.4	66 3.2	708 34.2	419 20.2	
手帳の等級	1級	680 100.0	168 24.7	181 26.6	176 25.9	226 33.2	99 14.6	133 19.6	276 40.6	257 37.8	260 38.2	117 17.2	153 22.5	148 21.8	27 4.0	200 29.4	110 16.2
	2級	381 100.0	75 19.7	95 24.9	78 20.5	134 35.2	31 8.1	58 15.2	165 43.3	148 38.8	143 37.5	61 16.0	72 18.9	65 17.1	16 4.2	71 18.6	60 15.7
	3級	343 100.0	20 5.8	27 7.9	22 6.4	47 13.7	7 2.0	12 3.5	74 21.6	48 14.0	51 14.9	16 4.7	20 5.8	23 6.7	5 1.5	133 38.8	87 25.4
	4級	409 100.0	22 5.4	20 4.9	21 5.1	37 9.0	8 2.0	13 3.2	73 17.8	52 12.7	56 13.7	17 4.2	25 6.1	22 5.4	12 2.9	195 47.7	98 24.0
	5級	82 100.0	5 6.1	4 4.9	4 4.9	5 6.1	0 0.0	2 2.4	12 14.6	10 12.2	9 11.0	3 3.7	4 4.9	5 6.1	1 1.2	42 51.2	19 23.2
	6級	104 100.0	6 5.8	6 5.8	8 7.7	8 7.7	2 1.9	5 4.8	17 16.3	13 12.5	15 14.4	8 7.7	12 11.5	8 7.7	3 2.9	57 54.8	21 20.2

身体障害の種類別では、視覚障害は外出、聴覚・言語障害は会話、コミュニケーション、電話、ファクシミリの利用、肢体不自由は外出など身体活動を伴うものについて多くなっています。内部障害は、半数が介助の必要はないとしています。

上段：人数（人）、下段：割合（％）

身体障害者	全体	問28 日常生活で介助が必要なこと															
		食事	着替え	トイレ	入浴	寝返り	室内の移動	外出	後食かたづけ	除身の洗濯りの掃	会話、コミュニケーション	金銭の管理	ミ電話の利用	その他	介助は必要ない	不明	
合計	2073 100.0	313 15.1	354 17.1	326 15.7	480 23.2	152 7.3	234 11.3	635 30.6	555 26.8	560 27.0	229 11.0	300 14.5	278 13.4	66 3.2	708 34.2	419 20.2	
障害の種類	視覚障害	130 100.0	21 16.2	15 11.5	15 11.5	5 3.8	9 6.9	51 39.2	31 23.8	26 20.0	13 10.0	18 13.8	19 14.6	7 5.4	28 21.5	33 25.4	
	聴覚・言語障害	189 100.0	17 9.0	16 8.5	15 7.9	22 11.6	4 2.1	9 4.8	32 16.9	29 15.3	26 13.8	49 25.9	23 12.2	41 21.7	10 5.3	61 32.3	42 22.2
	肢体不自由	1015 100.0	207 20.4	264 26.0	242 23.8	344 33.9	125 12.3	184 18.1	406 40.0	368 36.3	373 36.7	127 12.5	206 20.3	167 16.5	35 3.4	301 29.7	165 16.3
	内部障害	591 100.0	34 5.8	23 3.9	25 4.2	48 8.1	6 1.0	12 2.0	89 15.1	75 12.7	83 14.0	19 3.2	26 4.4	27 4.6	11 1.9	296 50.1	136 23.0
	合計	2073 100.0	313 15.1	354 17.1	326 15.7	480 23.2	152 7.3	234 11.3	635 30.6	555 26.8	560 27.0	229 11.0	300 14.5	278 13.4	66 3.2	708 34.2	419 20.2

知的障害者では、金銭の管理をはじめ、身の回りの掃除、洗濯、食事のしたくや後かたづけ、会話、コミュニケーション、外出、電話、ファクシミリの利用が半数以上と多く、障害の状況により身体障害者とはやや異なる状況となっています。

年齢別では、17歳未満だけでなく17～39歳でも介護を必要とするものが多く、身体障害者に比べ高い年齢層でも介助が必要となっています。

上段：人数（人）、下段：割合（％）

知的障害者	全体	問28 日常生活で介助が必要なこと															
		食事	着替え	トイレ	入浴	寝返り	室内の移動	外出	後食かたづけ	除身の洗濯りの掃	会話、コミュニケーション	金銭の管理	ミ電話の利用	その他	介助は必要ない	不明	
合計	326 100.0	108 33.1	114 35.0	122 37.4	155 47.5	17 5.2	28 8.6	172 52.8	197 60.4	202 62.0	178 54.6	214 65.6	164 50.3	9 2.8	37 11.3	32 9.8	
年齢	17歳未満	81 100.0	30 37.0	33 40.7	35 43.2	44 54.3	6 7.4	8 9.9	50 61.7	54 66.7	59 72.8	51 63.0	55 67.9	49 60.5	3 3.7	12 14.8	5 6.2
	17～39歳	170 100.0	59 34.7	56 32.9	67 39.4	80 47.1	7 4.1	13 7.6	92 54.1	108 63.5	107 62.9	98 57.6	122 71.8	89 52.4	6 3.5	20 11.8	13 7.6
	40～64歳	56 100.0	13 23.2	18 32.1	14 25.0	23 41.1	3 5.4	5 8.9	19 33.9	24 42.9	25 44.6	21 37.5	27 48.2	18 32.1	0 0.0	4 7.1	11 19.6
	65歳以上	13 100.0	6 46.2	5 38.5	5 38.5	6 46.2	1 7.7	2 15.4	9 69.2	9 69.2	8 61.5	6 46.2	9 69.2	8 61.5	0 0.0	0 0.0	1 7.7

精神障害者では、身の回りの掃除、洗濯、食事のしたくや後かたづけ、金銭の管理がいずれも20%台と多いが、身体障害者や知的障害者に比べ、介助を必要とする割合は小さくなっています。しかし、介助は必要ないとする人は26.8%と、とくに多くなってはならず、常時介護が必要というよりも、必要なときに適切な支援を得られたり、精神的な面でのケアが必要になっているものと考えられます。

しかし年齢別では、65歳以上で外出や金銭の管理などで他の年代に比べ多くなっており、これは精神障害によるものだけではなく、年齢による部分もあるものと考えられます。

上段：人数（人）、下段：割合（%）

精神障害者	全体	問29 日常生活で介助が必要なこと															
		食事	着替え	トイレ	入浴	寝返り	室内の移動	外出	後食かたづけしたくや	除身の洗濯りの掃	ケ会話シヨミニ	金銭の管理	ミ電話の利フアクシ	その他	介助は必要ない	不明	
合計	194 100.0	28 14.4	15 7.7	10 5.2	17 8.8	2 1.0	8 4.1	34 17.5	52 26.8	58 29.9	34 17.5	41 21.1	18 9.3	5 2.6	52 26.8	52 26.8	
年齢	17歳未満	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	17～39歳	52 100.0	4 7.7	1 1.9	0 0.0	2 3.8	0 0.0	1 1.9	5 9.6	13 25.0	13 25.0	9 17.3	13 25.0	2 3.8	2 3.8	17 32.7	14 26.9
	40～64歳	105 100.0	16 15.2	5 4.8	5 4.8	6 5.7	1 1.0	4 3.8	17 16.2	24 22.9	30 28.6	18 17.1	16 15.2	10 9.5	3 2.9	26 24.8	30 28.6
	65歳以上	29 100.0	7 24.1	8 27.6	4 13.8	8 27.6	1 3.4	3 10.3	11 37.9	13 44.8	14 48.3	7 24.1	11 37.9	6 20.7	0 0.0	6 20.7	5 17.2

(2) 介助者

主に介助をしている人は、身体障害者では配偶者（35.1%）が多く、次いで子ども（13.2%）、母（8.8%）となっています。

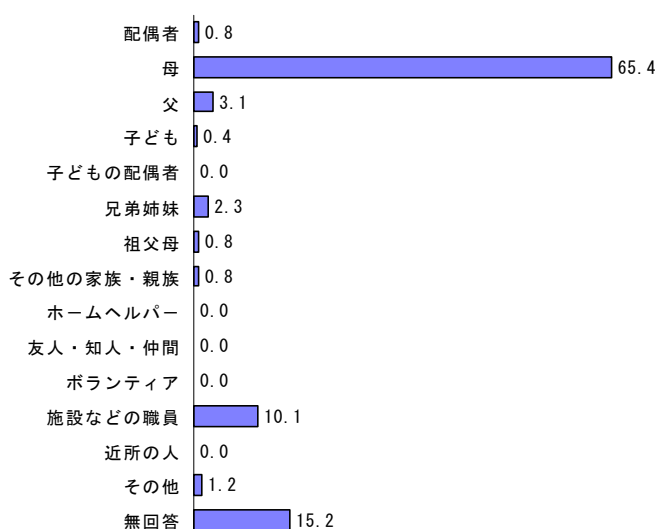
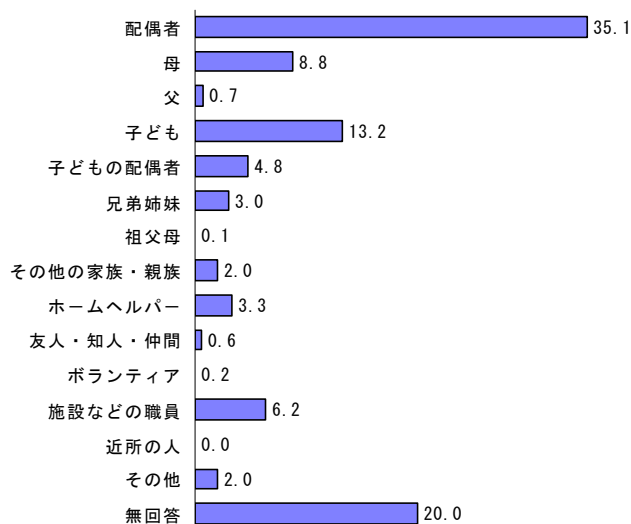
知的障害者では母が65.4%と圧倒的に多く、父は3.1%とわずかです。また、施設などの職員が10.1%と比較的多い。

身体障害者（946人）

単位：%

知的障害者（257人）

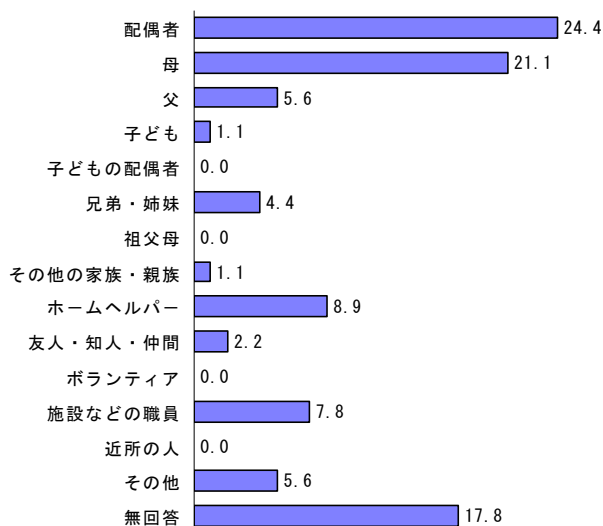
単位：%



精神障害者は、配偶者（24.4%）と母（21.1%）がともに多いことが特徴です。このほか、ホームヘルパー（8.9%）、施設などの職員（7.8%）も比較的多い。

精神障害者（90人）

単位：%

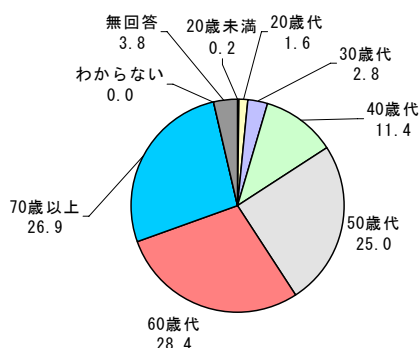


(3) 介助者の年齢

主に介助をしている人の年齢は、身体障害者では 50 歳代、60 歳代、70 歳以上がいずれも 25～30%と分散し、高齢層も多くなっています。知的障害者は 40～60 歳代が主です。精神障害者は 60 歳代及び 70 歳以上がともに約 35%と、高齢層が多くなっています。

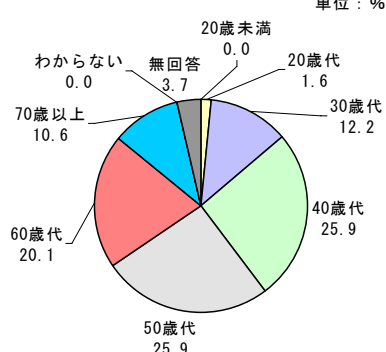
身体障害者（640人）

単位：%



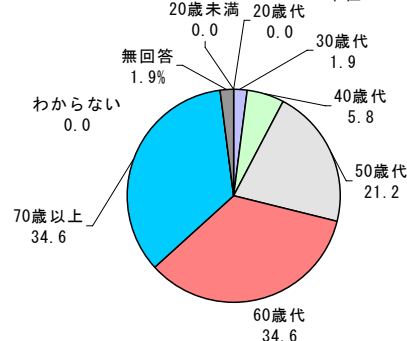
知的障害者（189人）

単位：%



精神障害者（52人）

単位：%



(4) 介助を受けるうえで困っていること

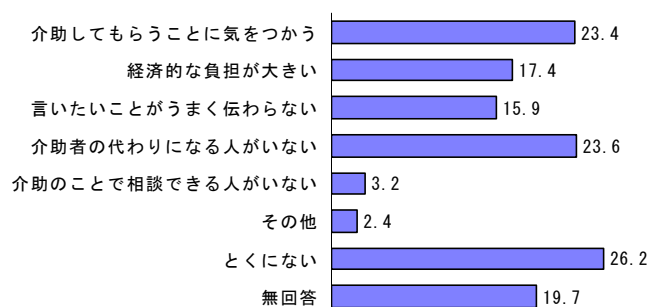
介助を受けるうえで困っていることは、身体障害者では介助者の代わりになる人がいないこと、介助をしてもらうことに気を使うことがともに約23%と多くなっています。

知的障害者でも介助者の代わりになる人がいないことが多いとともに(38.1%)、言いたいことがうまく伝わらないことも同程度あげられ、主に母親に介助の負担がかかるとともに、たとえ母親であっても、知的障害のために意思の疎通がむずかしい様子がうかがえます。

精神障害者では経済的な負担が大きいことが最も多く(31.1%)、次いで介助のことで相談できる人がいない、介助してもらおうことに気をつかうも多く、高齢の介助者が多いこと、また、ホームヘルパや施設職員による介助が比較的多いことが反映されています。

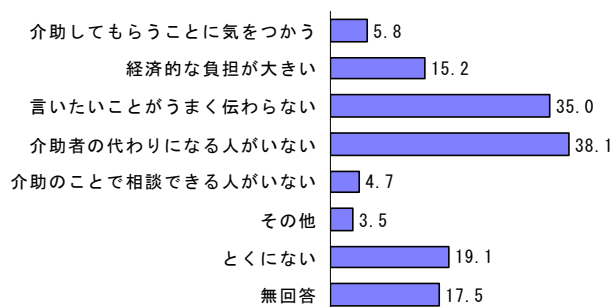
身体障害者 (946人)

単位：%



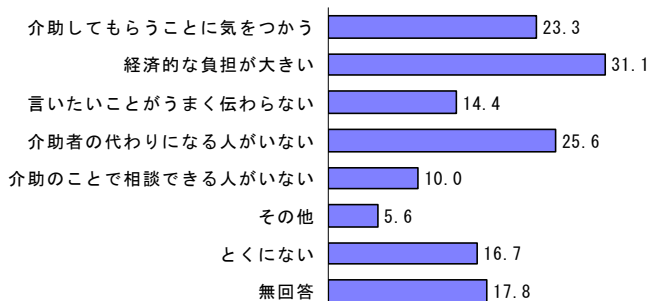
知的障害者 (257人)

単位：%



精神障害者 (90人)

単位：%



(5) 介助をするうえで困っていること

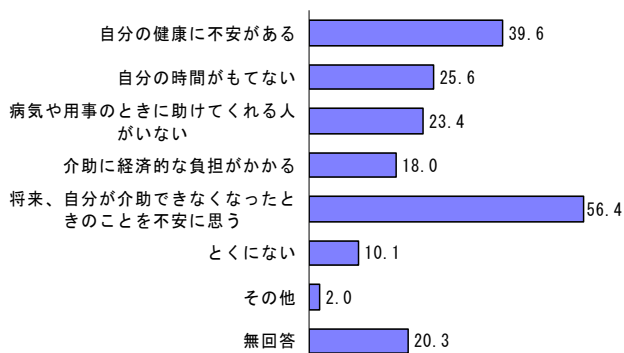
介助をしている人から見て介助をするうえで困っていることは、いずれの障害でも、将来自分が介助できなくなったときのことが最も多く、特に知的障害者では87.2%の人があげています。知的障害者は主に母親が介助しており、代替りの介助者も得にくく、将来のことが大きな課題となっています。

次いで、介助者自身の健康に不安があることがあげられ、特に高齢の介助者が多い精神障害者で半数の人があげています。

また、病気や用事の時など、一時的に助けてくれる人がいないことも20～30%見られます。

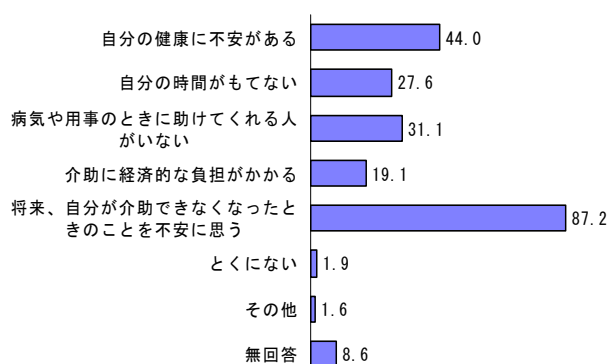
身体障害者（946人）

単位：%



知的障害者（257人）

単位：%



精神障害者（90人）

単位：%

